

『じどう車くらべ』

— 「しごと」と「つくり」の因果関係を実感的に捉える —

1年

■ 設定の趣旨

説明文を読むことを通して身に付けた力は、自分で説明文を書くという言語活動の場で最も発揮されやすい。この単元で言えば「じどう車しょうかいカード」に説明を書くことで達成される。

しかし、完成した作品を見ると期待通りの読む力が活用されている姿がなかなか見えてこない。カード等を作成する活動のみにとらわれてしまい、読み取りが表面だけにとどまってしまうからではないだろうか。

そこで、自動車のすばらしさに自然と目が向くこの期の児童の関心を大切にし、内容とともに言語形式に着目しながら丁寧に読むことに重きをおいて学習を進めたい。そして、「しごと」と「つくり」が「切っても切り離せないぴったりの関係になっている」という因果関係を実感的に捉え、それぞれの自動車のすばらしさとして読み味わうことができるようにしたい。その上で書きぶりのすばらしさに目を向けられるようにする。そのことがひいては、作品を書く段階で「ぜひ、まねをして書きたい。」と思える、知識を活用する意欲へとつながっていくと考える。

■ 指導目標

- 「しごと」を説明した上でそれにふさわしい「つくり」が説明されているといったことについて理解することができる。 【知識及び技能】
- この「しごと」を行うためにこの「つくり」になっているという因果関係で、3種類のそれぞれの車が説明されていることを読み味わったり、自分の選んだ車についてカードに書き表したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 学習課題に沿って「しごと」と「つくり」のすばらしさについて進んで読み味わったり、取り出した情報をもとに最後まで丁寧に因果関係を意識してカードに書き表したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

■ 指導計画（11 時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな自動車を知っているか自動車カード等で仲間分けして考える。 ・題名と問いの文までの本文を読み、どんな話かを想像する。 ・「自動車くらべ」の全文を読み、初発の感想をもとに読み進めるための学習課題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」（機能）と「つくり」（構造）の言葉を捉えられるかが鍵。自由にカード等で仲間分けをさせると、車の色や構造から「火を消す」「人を運ぶ」等機能に目を移していく中で考えさせる。 ・「どの自動車もすばらしいところがある」という感想が共有できたところで「すばらしいところを見つける」という学習課題をつかめるようにする。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・バスや乗用車（P29）のすばらしいところを見つけて交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文と挿絵の入ったワークシートを用意し、気づいたことを自由に書き込めるようにする。 ・交流時の児童の発言を板書に位置付けて、「しごと」と「つくり」の因果関係を読み取れるようにする。 <p>【思・判・表】 発言・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの車も「しごと」と「つくり」が切り離せない密接な関係になっていることを実感していることがうかがえる記述や発言を見取る。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・トラック（P30）のすばらしいところを見つけて交流する。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン車（P31）のすばらしいところを見つけて交流する。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・全文（P28～31）を読み直し、自動車を比べることで気づく、すばらしいところを見つけて交流する。 	
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「はしご車」を提示し、「しごと」と「つくり」の順に因果関係を意識しながら文章に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でも文章が書けそうだ」という見通しが児童に出てきたところで、全員で書き表すようにする。 ・図書資料等から「しごと」と「つくり」の情報を分けて取り出し、ノートに整理できるようにする。
	7		

わたしの授業

8	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の作成したモデル文を読み、書き方の工夫を見つけることで、活動の見通しをもつ。 ・学級全員で「じどう車ずかん」を作るという学習課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の作成したモデル文を見せて、書き方の工夫を見つけるようにする。そうすることで、「しごと」と「つくり」を調べて、まとまりを考えたら自分も説明文を書くことができそうだという学習の見通しをもちやすくする。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ車について図書資料等から情報を集め、「しごと」と「つくり」の順に因果関係を意識しながら「じどう車しょうかいカード」に書き表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに情報をノートに整理し、それからモデル文を意識して文章に表すという手順を確認する。 ・図書資料等をもとに自分が選んだ車について情報を集め、「しごと」と「つくり」の情報を整理する。
10		<ul style="list-style-type: none"> ・常にモデル文を手本とし、文章を書く前には「しごと」と「つくり」を口頭で語らせる等することで、まとまりを意識しながら書くことができるようにする。 <p>【思・判・表】 発言・ノート等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだ車についても「しごと」と「つくり」が切り離せない密接な関係になっていることを理解し、まとまりを考えて文章に表している様子を見取る。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・「じどう車しょうかいカード」を読み合い、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を読み合い、「しごと」と「つくり」を意識して感想を伝え合うことで互いの作品のよさに気づきやすくする。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題に沿って常に「しごと」と「つくり」のすばらしさについて進んで読み味わっていたか、取り出した情報をもとに最後まで丁寧に因果関係を意識してカードに書き表していたかを、活動の姿や毎時間の振り返りの記述から見取る。

■ 指導のポイント

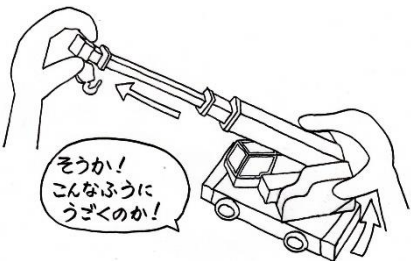
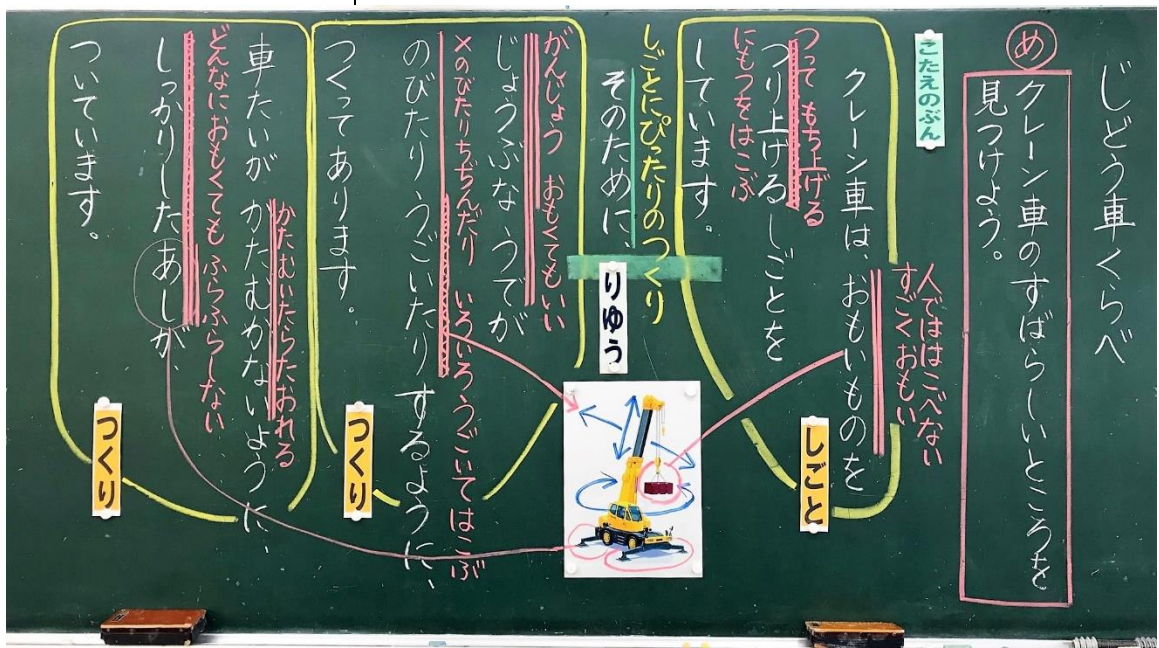
〈第4時の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ
1. これまでの学習を振り返り、学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・問いと答えの関係を想起し、それぞれの車の「しごと」と「つくり」の因果関係がすばらしかったことを確かめられるようにする。 ・「クレーン車にもすばらしいところは見つかりそうか」と投げかけることで、児童の学習意欲を喚起する。

《めあて》 クレーン車のすばらしいところを見つけてはなしあおう

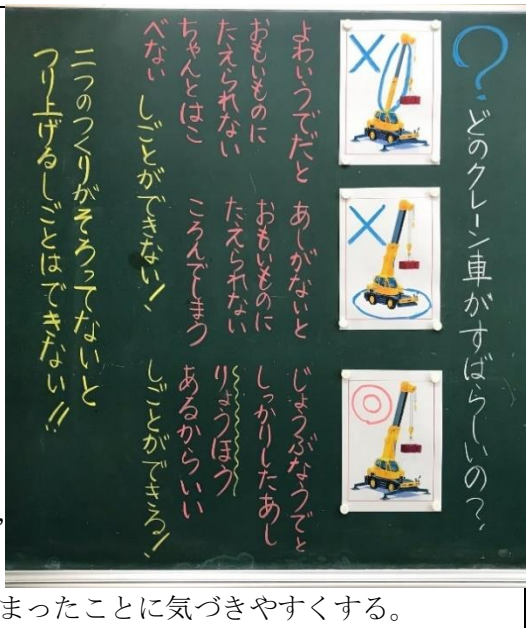
2. クレーン車の説明を読み、すばらしいところを見つける。
3. 見つけたすばらしいところについての考えをもとに交流する。

- ・本文と挿絵の入ったワークシートを用意し、クレーン車のすばらしさについて気がついたことを自由に書き込めるようにする。
- ・交流時の児童の発言を板書に位置付けていくことで、どの言葉や挿絵のどの部分を根拠にして考えをもったか、どの表現とどの表現を関係づけているかを考えやすくする。
- ・「しごと」と「つくり」の因果関係が可視化できるように、構造的に板書することで、両者がぴったりの関係であることを読み味わえるようにする。



- ・「のびたりうごいたり」に話題が推移してきたところで、『「伸びたり縮んだり』でもよいか』と投げかけることで、仕事をするために腕はさまざまな動きが可能であることに気づくことができるようにする。ミニカーを用意し、動かしてみせることでより実感的な理解ができるようにする。
- ・児童の発言が一通り出てきたところで、3枚の絵を提示する。1枚は教科書の挿絵と同じもの、1枚は腕を細く加工したもの、1枚は足を消して加工したものにする。「どのクレーン車がすばらしいのか」と投げかけ、隣の友達や全体に説明するようにすることで、それぞれの児童が考えを再構成できるようにする。
- ・3枚の絵をもとにクレーン車のすばらしさについて児童が語ってきたところで「腕と足、どちらがすばらしいのか」と投げかける。そうすることで、両方のつくりが備わっているからこそ

わたしの授業

<p>4. 本時のまとめをする。</p> <p>5. 本時のふりかえりをする。</p>	<p>仕事ができるのだということに気づくことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・板書を概観し、学習過程を全員で確認していくことで、すばらしさについて「しごと」と「つくり」の観点からまとめることができやすくする。・学習を振り返ることで、友達と考えを交流することを通して学びが深まったことに気づきやすくする。	 <p>二つのつくりがそろってないと つり上げるしごとはできない!!</p> <p>よわいづでだど あしがなと おもいものに おもいものに たえられない たえられない ちゃんとはこ ころんでまづ べない しごとはがけきない、 しごとはがけきない、</p> <p>どのクレーン車がすばらしいの?</p>
---	---	--

■ 後記

第2～4時では、一貫してそれぞれの自動車の「すばらしさ」について着目し読んでいく。児童の関心が最も高いのは自動車のもつすばらしさであり、それを取り上げて追究していくことが「**主体的な学び**」につながる。説明は「しごと」と「つくり」について分けて書かれているが、1年生の児童にとってそれを最初から意識することは難しいことである。学習のめあてを関心事である「すばらしさ」とし、本文を根拠にしてすばらしさについての気づきを、行間や空白に自由に書き込めるワークシートを用意して読み進められるようにしたい。そして、交流時の構造的な板書や具体物の提示の工夫、加工した画像による発問等を通して、繰り返し説明する機会をもって「**対話的な学び**」を保障したい。そうすることで「切っても切り離せないぴったりの関係になっている」という実感的な理解を進め、「**深い学び**」が成立していくと考える。この過程を通った児童は「しごと」と「つくり」の因果関係の繰り返しについても実感的な理解が進んでいるので、第5時において「比べる」という思考についても深まりやすいと考える。

第6～8時でクラスの友達と共有しながら書き進め、「しごと」と「つくり」の因果関係をおさえた書き方を身につけた児童は、「じどう車しょうかいカード」を作成するという個人の活動にも抵抗感なく入っていき、「**主体的な学び**」を行うことができるだろう。第9～10時で自分の選んだ車について「しごと」と「つくり」について分けて情報を取り出し、作品を書く段階では、図書資料によって活動の難易度に大きな差が生じることが考えられる。事前に教員が児童に与えようとしている図書資料を読んでおき、児童にとって書き写すだけの形骸化した作業にならないようによく教材研究をした上で提示することが「**深い学び**」につながると考える。第11時では「しごと」と「つくり」の因果関係を意識して友達と作品を読み合い、交流できるように働きかけることで、「**対話的で深い学び**」が成立すると考える。